



第 128 号

発行所
宇都宮市立桜小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
高梨 敏朗
印刷所
株式会社宮本印刷

主張 「強くやさしい教職員集団」

栃木県小学校長会副会長 菅野 美智子



昨年度より、新教育課程が実施され、現場では新たな取組が始まりました。ある日、低学年の授業研究会に参加して驚きました。我々が担任として指導していた頃のそれは、随分違っていたのです。かけ算の考え方や身の回りの例題などから概念を学ばせ、低学年といえども、理論的に考えるところという段階を経ての九九の学習でありました。考

えや理論重視の指導には、かなりの教材研究力と指導力が要求されると痛感しました。

本校の児童数は五八〇名、各学級三〇名前後の指導し易い（？）人数です。しかし、現実には自閉的傾向の児童や学習障害が疑われる児童の存在に加えて、家庭の事情で心が不安定な児童が各学級の授業成立や安定した学級経営を困難にしています。

政治の状況は先が見えず、定数加配も現在の小学校の現場の実情に合うものではないかもしれません。そこに学習状況調査結果が突きつけられ、教職員は疲弊しきって

しまわないかと懸念されます。

そんな中、本校では強く毅然とした態度等）やさしい（やさしく分かり易い授業・ひとつひとつ丁寧に取組む児童指導等）教職員集団を目指しています。近年教職員の多忙感に目が向けられ始めましたが、七時間四十五分の勤務時間では、課題解決にはあまりにも不可能な勤務状況です。社会情勢や環境が年々大きく変化している時期に、教職員の労働環境は劣悪になるばかりです。それでも強さ

やさしさで、あきらめずに頑張るこの集団に、支援・応援しようとする世の中や政治家が不在なのが本当に残念でなりません。
(小山市立間々田小学校)

主張 「教育の本質について思うこと」

栃木県小学校長会副会長 滝原 一夫



この半月の間に三回の嬉しい出会いをしました。集金にきてくれたA君は、昔の教え子でした。

「先生に言われた言葉を今でも守っています。仕事で失敗して辛いこともあるけれど、頑張ります。」と、笑顔で帰りました。

Bさんのお母さんは、「先生の言葉で、娘は頑張ったんですよ。今は、子育てと仕事を両立して充実した日々を送っています。」と、話してくれました。

Cさんのお母さんは、「家で金子みすゞの詩を毎日音読していたことを思い出します。元気にやっています。」

と、話してくれました。出会いの後は、とても幸せな気分になりました。今、学校には課題が山積

しています。子どもたちの学力・体力・モラルの低下、家庭・地域・社会の教育力の低下。教師の質を問う声も聞こえてきて、教師には、評価制度や免許状更新制度が課せられました。この数十年の間に、学校は随分変わりました。

でも、教育の本質は変わらないと思います。教育とは、子どもたちに自分たちの知識・技術・文化を伝えること。将来幸せに生きていけるように温かく見守り導くことだと思います。

互いに認め合い助け合って生きていく。大人のそんな姿をお手本にして、子どもたちが、希望を持って成長していき、周りの人たちと幸せに暮らせる大人になることが出来たら、教師冥利に尽きると思います。

校長は、教職員の指導力を高めることに尽力するとともに、教育の本質を若い人たちに伝えていかなければならないと思っています。
(那須烏山市立烏山小学校)